



群馬県コンクール 金賞

命のつまたたから物

太田市立沢野小学校 6年 吉江日日

私には、近所にお母さんの実家があります。おじいちゃんとおばあちゃんは昔から、お米を作っています。田植えをする前に、田んぼの土を耕し、苗を植え、水を入れて、大事に育てています。でも、今年の田んぼは、なんだかちょっとちがって見えます。

去年までは、おじいちゃんとおばあちゃんが、二人でお米作りしていました。時々、私達もいっしょに田植えを手伝っていました。

「苗を3から4本適切な深さまで、まっすぐ植えることだよ。」と田植えのコツを教えてくれました。コツの通りにやると、早くできるし、こしもつかれないし、楽でした。おじいちゃんとおばあちゃんと田植えができて、うれしかったし、楽しい春の思い出になりました。

でも、去年の十一月におばあちゃんが病気で亡くなってしまいました。田んぼの帰り道で、私に「また来年もいっしょにやろうね。」と言っていたのに、その約束は、叶わなくなってしまいました。

今年の田植えは、おじいちゃんが一人でやっています。私達家族も手伝うけど、おじいちゃんの背中がいつもより小さくて、どこかさびしいように見えます。私も田んぼに立って、お空を見た時、風にゆれているいねの葉っぱが、なんだか泣いているように見える時があります

田んぼには、かもやトンボやカエルやたくさんの命が、集まっています。田植えが終わるころには、オタマジャクシが泳いでいて、カエルがピョンピョンとはねて、かもが水の中をスイスイ泳いで、夏が過ぎるころにはトンボが飛んでいます。カラスも空から見ています。小さな虫達もいっぱいです。田んぼは、お米を育てるだけじゃなくて、命を育てる場所なんだと思いました。

昨日は、おじいちゃんとおばあちゃんが作ったお米で、おむすびを作りました。一口かじった時に、ピカピカしていて、あまくて、体の中から力がわいてくるような気がしました。二人が育てたお米には、たくさんの命がつまっている。田んぼの虫やカエル、空の雲や風そして、家族の思い出も。

私は、これからも田んぼの手伝いをしたいと思います。そして、もっとたくさんの事をおじいちゃんの背中から学びたいです。お米は、命のつまたたから物。田んぼは、命がいきかう場所。私もそして、おばあちゃんとの思い出も、その命の中で生きているのだと思いました。